



五 姫 加 第 6 9 号

平成30年2月16日

特定非営利活動法人

瀬戸内海の水域の秩序ある利用を進める会会長 殿

東 播 磨 港 長



引火性危険物積載タンカーへの接近、接舷の制限に関する港長公示
について（お知らせ）

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、海上保安業務に多大なご協力を賜り深く感謝申し上げます。

この度、平成30年1月31日に「海上交通安全法等の一部を改正する法律」が施行され港則法が一部改正されたことに伴い、昭和61年2月10日付港長公示第1号「引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む。）への接近、接舷の制限について」に記載されている公示文冒頭の根拠条文の条数が「第37条」から「第39条」に変更されたため、別添のとおり新たに港長公示を行いましたのでお知らせします。

本公示に伴い、昭和61年2月10日付港長公示第1号は廃止します。

なお、港長公示の制限事項については変更ありません。

港長公示第30-1号

港則法第39条第1項の規定により、次のとおり船舶の航泊を制限したから、同条第2項の規定により公示する。

なお、本公示に伴い昭和61年2月10日付港長公示第1号は廃止する。

平成30年1月31日

東播磨港長



引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む。以下同じ。）への接近、接舷の制限について

引火による船舶の事故を防止するため、引火性危険物積載タンカーの付近における船舶の航泊を下記のとおり制限する。

記

1 期 間

平成30年1月31日から当分の間

2 区 域

港内に停泊中の引火性危険物積載タンカーから30メートル以内の海面

3 制限事項

船舶は、港内に引火性危険物積載タンカーが停泊している間、上記区域に立ち入ってはならない。

ただし、次に掲げる船舶を除く。

(1) 港長が当該タンカーへの接近、接舷を認め、本制限を解除した船舶。

(2) 次の条件を満足する給油船、交通船、曳船等当該タンカーの運航に関係ある船舶及び官公庁用船舶であつて、当該タンカーの荷役中以外の時に接舷する船舶。

イ 甲板上又は船内の開放された場所において、喫煙、暖房、ほう炊、その他の火気を使用しておらず、あるいは火花を発生おそれのある修理又は作業を行っていないこと。

ロ 煙突に火粉の吐出を防止するのに十分な装置を施していること。

ハ その他防爆措置等当該タンカーに引火するおそれがないよう火気管理を適切に講じていること。

4 標示

引火性危険物積載タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」と表示された垂れ幕等を掲げている。

5 備考

引火性危険物積載タンカーに接舷中（接離舷時を含む。）の船舶は、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 船体の接触による火花の発生を防止するため、十分な防舷物を使用すること。
- (2) 係留索にワイヤーロープを使用する場合は、船体との接触による火花の発生を防止するよう、十分な措置を講ずること。
- (3) 港長が適当と認める場合のほか、喫煙、暖房、ほう炊その他の火気を使用し、あるいは火花を発生おそれのある修理又は作業を行わないこと。
- (4) 接舷時間は必要最小限とすること。